

小野新市長に聞く



激戦だった伊東市長選を制し、小野達也氏(54)が第19代市長に就く。29日の初登庁を前に、市長としての決意、政策などを聞いた。

若い職員と直接対話

「まずは何から手を付けていきますか。」

小野 今までの保守の政治は継承するが、変えるべき点は大胆に変えたい。29日の訓示は係長級以上が慣例らしいが、一般職の特に若い世代と直接話をしたいとお願いした。良いものは引き継ぎ、自分が変えたいと思うところはすばやくやってほしいと言いつつもりだ。「市

長を見て仕事をするな。市民を向け」ということを伝えたい。

若い世代の市民、市職員、移住者らによる「未来ビジョン会議」は目玉政策の一つだと思いが、具体的にどういう方法でいつ立ち上げるのか。

小野 組織を改編してでも戦略監を置いて、新規政策の専門部署をつくっていく。市議会6月定例会の後、すぐに取り掛かり、意見は来年度予算に反映

保守継承も大胆に改革

させていきたい。

「にぎわいのある観光地づくりの中で従来の「泊2日型」を「滞在型」に変えていくとしているが、具体的にどうするのか。

小野 「プレミアムフライデー」を毎月実施している首都圏の大手企業に、トップセールスを掛ける。民間企業の協力も得て付加価値を付けた旅行商品をつくり、伊東にもう泊してくれるよう誘客

タクシーで戻ってもらうなども一案だ。駅前足湯 多言語看板

「伊東駅前周辺整備はどう進めていくか。

小野 開発会社にプランを出してもらった。交通機関などとも協議したりすることも必要。市ができることとして、足湯を設置してそこに大型のディスプレイを置き観光スポットを紹介する。多言

戦略監置き「未来ビジョン」

リピーター増へ魅力発信

していく。

「市街地を歩ける町づくりをどうしていくのか。

小野 ささいなことだが、宿泊施設がお客様さまをマイクログラスで送る時、アーケードなどで「伊東駅まで歩いて10分です」と言っているが、今後どうして降ろす。松川藤の広場では有志が必ず何店かの「屋台」を出す。ホテル・旅館は宿泊客をそこまで送り、帰りは

語の看板も付けインバウンドに対応する。できることから始め、駅をゆったりとできる場所にする。任期中には今とは違う風景にした

い。 一八幡野地区で計画中の大規模太陽光発電設備の建設に反対しているが、今後どうしていくのか。

小野 反対で署名活動をした団体と6月2日まで、第1回の研究会を開く。住民の反対理由を明確にし、予定地区の現況はどうなっているか、関係法令なども含めて話し合う。何回か話し合いを重ねた後に事業者と向き合い、自分が先頭に立ち、誠意を持って話をしていきたい。

市民主役に

一つずつ改善

「最後に、改めてどういう伊東市にしていきたいか。

小野 一つ一つ改善していく。